

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 3 日現在

機関番号：14202

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22792222

研究課題名（和文） NICU を退院した子どもとその家族への包括的支援に関する研究

研究課題名（英文） Research of Comprehensive Support post NICU children and Family

研究代表者

白坂 真紀（SHIRASAKA MAKI）

滋賀医科大学・医学部・助教

研究者番号：40378443

研究成果の概要（和文）：

NICU を退院した子どもを養育する父親と母親を対象に、育児生活についてインタビュー調査とアンケート調査を行った。父親と母親の約 4 割は育児に困難を感じながらも、ほぼ 9 割は子育てが楽しいと回答していた。父親は育児をよくしていると回答した母親は約半数であり、約 7 割の母親が父親（夫）を相談相手や精神的な支えとしていた。子どもの緊急時の対応や発育支援についての期待、保健や福祉制度の地域による違いへの戸惑い、NICU を退院した子どもの親同士が集える機会の要望などがみられた。

研究成果の概要（英文）：

For the father and mother who bring up the child who left NICU, interview investigation and a questionnaire were performed about the childcare life. They who answered that about 90% had pleasant child-rearing though difficulty was felt for bringing-up about 40%. The mother who answered that the father had improved child care is about 50%, and about 70% of the mother was considering father(husband) as the adviser or the mental support.

Their opinion and request were as follows:

- Correspondence in a child's emergency.
- Expectation about growth support.
- Puzzlement by the area in health or welfare through which it is different.
- Opportunity which can gather in the parents of the child post NICU etc.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	700,000	210,000	910,000
2012 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,100,000	630,000	2,730,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：NICU・父親・母親・子育て支援

1. 研究開始当初の背景

出生数が減少する一方、低出生体重児の割合が増え続け、それが死亡率の低下と相まっ

て NICU に入院する新生児の数は増え続けている。NICU を退院したリスクの高い子どもを育てる親の困難さは育児不安や虐待に

つながる問題として取り上げられており、子どもの健やかな発育のために養育者への支援は重要である。ハイリスク児のフォローアップは、成長や神経学的予後、罹病率、機能的状態ばかりでなく、行動、情緒、認識力、自尊心なども含めたフォローアップと育児支援が求められている。長期的な予後の評価には養育環境の影響も大きく、父親がかかわった子どもの認知や情緒の発達は良いことなど、子どもの成長発達には母親だけでなく、父親の影響も大きいことがいわれている。NICU入院の多くを占める低出生体重児の育児不安に関する研究は母親を対象としたものが8割を占め、父親または両親を対象とした調査研究の必要性がいわれているものの、特に父親への調査は十分とはいえない現状である。

2. 研究の目的

NICUを退院した子どもとその家族を支援する保健・福祉・教育の地域連携体制の構築である。NICUを退院し小児科フォローアップ外来を受診する子どもを養育する父親と母親の育児生活と相互の育児協力に関する認識を明らかにし支援を検討することである。

3. 研究の方法

本研究は、第一次調査（インタビュー調査）、第二次調査（質問紙調査）の2部構成とした。

(1) 第一次調査（インタビュー調査）

NICUを退院した双子を養育する父親の育児の実際を明らかにすることを目的に、父親と母親10組20名へ半構成的面接を行い質的記述的方法により分析した。面接内容は以下のとおりである。

- ①基本情報（家族構成、年齢、性別など）
- ②NICU入院時の状況（困りごとや解決方法など）
- ③退院後の生活（楽しかったことや大変だったことなど）
- ④父親と母親の役割
- ⑤医療と看護、地域での支援に関する意見・感想

(2) 第二次調査（質問紙調査）

NICUを退院し小児科外来でフォローアップ検診を受けている子どもを養育する父親と母親250組500名へ質問紙調査を行った。アンケート内容は以下のとおりである。

①対象者の属性

子どもの年齢・月齢、性別、出生時とNICU入院時の状況、入院理由、医療的ケアの有無、父親と母親の年齢・職業、同居家族、昼間の主な養育者、保育園・幼稚園利用の有無、利用経験のある育児や家事サービス

- ②NICU入院中・退院後の心配事
- ③養育者の体調
- ④子育ての楽しさと困難感

⑤父親の育児時間・内容

⑥父親の精神的支援

⑦妊娠・出産・育児期の困りごととその対処

⑧父親の役割

⑨医療・保健に関する意見と希望

⑩教育・福祉・療育に関する意見と希望

⑪NICU入院について

⑫フォローアップ健診について

⑬NICUを退院した子どもの支援について

分析方法は各質問項目の回答集計を行い、記述項目は質的記述的分析を行った。

3) 倫理的配慮

本研究は、滋賀医科大学倫理委員会の承諾を得て行い、全過程において十分に倫理的な配慮をして行った。研究協力者の選定については、小児科外来フォローアップ担当医師より、子どもの両親へ調査への協力を依頼して行った。対象者の研究への参加は自由意思に基づくものとして、口頭と文書にて説明し（下記①～④）、十分なインフォームド・コンセントを行った。質問紙調査については、参加同意の意思表示については、アンケートを回収できた時点で同意を得たものと解釈することを明記した。

①研究の目的・意義の説明と研究協力への依頼について。

②研究への参加は自由意思であることを説明し、途中で中止できること、参加を断っても何の不利益も被らない事について。

③情報の秘密保持と得られたデータは研究以外に用いないこと、その保管には十分留意することについて。

④研究成果の学会発表など公表を行うことについて

4. 研究成果

(1) 第一次調査（インタビュー調査）

双子を養育する父親と母親からはそれぞれ10のカテゴリ（「」で示す）が抽出された。父親は、「双子の健康と発育を懸念」するが、「NICUで適切な治療とケアを受ける安心感」を得ていた。家庭では、「双子育児の苦労を実感し夫婦で共にする子育て」に取り組み、「妻や双子の心配事を抱える」など、「妻の心身への関心と配慮」を向けていた。日々の育児の中では、「双子それぞれを尊重したかわり」を通して、「双子の発育を実感する喜び」を感じ、同じ境遇の家族と交流するなど、「地域社会とのつながり」をもっていた。一方、育児支援制度などの情報や利用が乏しく、「消極的な社会資源の活用」の様子や、「育児支援環境未整備への不安」がうかがえた。安心して子育てできる社会環境の整備を目指し、医療者からは、妻や双子を支える立場にある父親への理解や諸情報の提供など継続した支援が必要である。母親は、「早産でNICUに入院した双子の健康と

発育への懸念」しながらも、「双子の生命力に喜びと感謝」し、「双子を平等に養育する責任感」をもっていた。母親自身「不安定な心身の状態」にあるが、「夫との意見と価値観の違いを認識」しながらも、「夫の協力を実感する双子育児」を通して「同時に二人の子どもを養育する困難と適応」を経験していた。「周囲と社会資源による支援と苦勞」を感じ、地域社会においては「双子と自分に合う交流への期待」を抱きながら、「周産期医療と育児支援の充実を希望」していた。NICUを退院した双子を養育する母親は、双子を同時に養育し平等に育てることに対する責任感を強く持ち、夫との価値観の違いを意識しながらも協力や共感を求めている。異なる境遇にある人との交流を限定する傾向がみられ、社会制度の活用や親族による育児の援助を受けながらも様々な苦勞が生じていた。母親自身、双胎を妊娠してから出産・産後に至るまで身体的侵襲による影響を受けていた。双子の健康や発育に懸念を示しながらも、その生命力に感謝し、更なる周産期医療と育児支援の充実を希望していた。

(2) 第二次調査（質問紙調査）

250組(500名)へ調査票の配布を行い父親と母親共に回答が得られた98組(196名)を分析対象とした。回収率は39.2%であった。

子どもの年齢は0歳48組(49.0%)、1-3歳44組(44.9%)、4-5歳2名(2.0%)、6歳以上4名(4.1%)であった。呼吸器や経管栄養など在宅での医療的ケアを必要とする児は5名(5.0%)であった。両親の平均年齢は父親35.9±5.8歳、母親34±5.0歳であった。核家族80組(81.6%)、拡大家族17組(17.3%)、不明1名で、きょうだい児がいる家庭は54組(55.1%)であった。以下、結果を「父親(名・%) / 母親(名・%)」の結果を示す。

心身の調子は「心身ともに快調」55名(56.2%)/54名(55.1%)、「体調は良いが気分は不調」7名(7.1%)/8名(8.2%)、「気分は良いが体調は不良」16名(16.4%)/18名(18.4%)、「心身ともに調子が悪い」6名(6.1%)/6名(6.1%)、「何とも言えない」12名(12.2%)/11名(11.2%)であった。

子育ては「楽しい」87名(88.8%)/82名(83.7%)、「何とも言えない」10名(10.2%)/15名(15.3%)、「楽しくない」0名(0%)/1名(1%)であった。子育てに困難を感じるものが「ある」36名(36.8%)/39名(39.8%)、「何とも言えない」28名(28.6%)/26名(26.5%)、「ない」6名(6.1%)/32名(32.7%)であった。父親は育児を「よくしている」33名(33.7%)/53名(54.1%)、「時々している」59名(60.2%)/39名(39.8%)、「ほとんどしない」4名(4.1%)/6名(6.1%)であった。

父親は子どもと「よく遊ぶ」50名

(51.0%)/56名(57.1%)、「時々遊ぶことがある」42名(42.9%)/39名(39.8%)、「ほとんど遊ばない」5名(5.1%)/3名(3.1%)であった。

父親は母親の相談相手・精神的な支えに「なっている」51名(52.1%)/67名(68.4%)、「何とも言えない」41名(41.8%)/22名(22.4%)、「なっていない」4名(4.1%)/8名(8.2%)であった。

父親の役割については「仕事を通して家庭に貢献する」20名(20.5%)/19名(19.4%)、「子どもが社会で生きていけるように手助けする」15名(15.3%)/24名(24.5%)、「妻の相談相手や精神的支持、援助をする」4名(4.0%)/12名(12.2%)、「家族全体を見守っていく」42名(42.9%)/35名(35.7%)、「特に意識していない」7名(7.1%)/4名(4.1%)であった。

NICUの入院について「満足している」97名(99.0%)/93名(94.9%)、「満足していない」0名/3名(3.1%)、不明1名(1.0%)/2名(2.0%)であった。

NICU退院後のフォローアップ健診（小児科外来通院）に「満足している」84名(85.7%)/89名(90.1%)、「満足していない」4名(4.1%)/3名(3.1%)、不明10名(10.2%)/2名(2.0%)であった。

心身の健康に関しては父親母親共に半数以上が良好と回答していた。育児を困難に感じることは父親が母親の1.6倍と高かったが、9割近い父親が育児は楽しいと回答していた。父親の育児関与については「よくしている」と回答した母親が父親の1.6倍であった。母親の相談相手や精神的な支えになっていると回答した父親は5割程度であるのに対して母親は約7割と高かった。NICU入院については10割近い父親と母親が満足しており、フォローアップ健診についても9割が満足と回答していた。

妊娠・出産・育児期を通して一番困ったことに関する父親の記述欄には、仕事と家庭（育児など）の両立、夜泣き・啼泣の対応、母親（妻）の不安定な精神状態、上の子の世話、子どもの体調不良、子どもの障がい・疾患やその理解、子どもの成長の心配、経済的負担などであった。母親は、妊娠・出産への不安、子どもの体調不良、自分自身の心身の体調不良とその管理、子どもの夜泣きや啼泣など育児ストレス、一人で子育てする状況、仕事と家庭のバランス、上の子どもの世話、祖父母との関係、経済的負担などであった。

NICUを退院した子どもと家族への支援に関する自由記載欄には、父親と母親共にNICU入院から退院し外来フォローアップ健診における子どもの治療やケアに対するスタッフへの感謝の記述が多かった。その他、子どもの緊急時の対応や育児支援についての期待、保健や福祉制度の地域による違いへの戸惑い、NICUを退院した子どもの親同士

が集える機会の要望等が記載されていた。

NICUを退院した子どもと家族への包括的支援システムを構築し、育児支援を進めることが重要である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- (1) 白坂真紀、桑田弘美：NICUを退院した双子を養育する父親の育児の実際，日本小児看護学会誌，22(1)，116-121，2013(査読有)
- (2) 白坂真紀、寺澤明子、桑田弘美：NICUを退院した子どもとその家族への包括的支援に関する研究—双子をもつ母親の養育における実情—，第43回日本看護学会論文集小児看護，86-89，2012(査読有)

[学会発表] (計7件)

- (1) 白坂真紀、桑田弘美：NICUを退院した子どもを養育する父親と母親の健康と育児協力に関する相互の認識，第60回日本小児保健協会学術集会 2013.9.26-28 東京都
- (2) 白坂真紀、榎本洋子、深田章子、河村光子、桑田弘美：NICUを退院した子どもの母親の育児に関する調査，第44回日本看学会小児看護 2013.9.12-13 栃木県
- (3) 白坂真紀、桑田弘美：NICUを退院した子どもを養育する父親の育児に関する調査，日本小児看護学会第23回学術集会 2013.7.13 高知県
- (4) Maki Shirasaka, Shigeki Koshida, Nobuo Kawane, Hiromi Kuwata, : Parenting skills of fathers of post-NICU twins, The 16th EAFONS, 22 Feb 2013, Bangkok Thailand
- (5) 白坂真紀、桑田弘美：NICUを退院した双子を養育する父親と母親の立場の相違，第61回日本小児保健協会学術集会，2012，岡山県
- (6) 白坂真紀、寺澤明子、桑田弘美：NICUを退院した双子を養育する母親の育児の実際，第43回日本看護学会小児看護，2012.9.14，島根県
- (7) 白坂真紀、桑田弘美：NICUを退院した双子を養育する父親の育児の実際，日本小児看護学会第21回学術集会，2011，埼玉県

[その他]

ホームページ等

<http://www.shiga-med.ac.jp/~hqkodomoindex.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

白坂 真紀 (SHIRASAKA MAKI)

滋賀医科大学・医学部・助教

研究者番号：40378443

(2) 研究協力者

桑田 弘美 (KUWATA HIROMI)

滋賀医科大学・医学部・教授

研究者番号：70324316

越田 繁樹 (KOSHIDA SHIGEKI)

滋賀医科大学・医学部・特任講師

研究者番号：70372547

柳 貴英 (YANAGI TAKAHIDE)

滋賀医科大学・医学部・助教

研究者番号：70418755

中原 小百合 (NAKAHARA SAYURI)

滋賀医科大学・医学部・特任助教

研究者番号：30599204